

造形通信

2023. 8月
NO.63
ひいらぎこども園



色とりどりに咲くパンジーの花。どの花にもごりのないとても澄んだ美しい色で仕上げています。お花畑のお花が優しく笑っています。自分で絵の題名を「かわいこちゃん」と決めてくれました。

京都こども美術展 京都府保育協会賞 年長児 弓指 由以さん

暑い暑い夏が続きます。キラキラ光る太陽の日差しが少しでも雲に隠れてくれるのを願ってしまう毎日です。水風船、水鉄砲、プール遊びとこども達は水に触れ合いながら夏を満喫しています。元気なこども達の声を聞きながら、秋の気配をさがしていきたいです。

自分を描く！！

今の自分



自分の顔を真剣にみつめて



これからの自分

年長のお部屋では、鏡を置いて映っている自分をじっくり見て、『自分の顔』を絵具やパスで描きました。よく見てみると、描いた本人に似ています。ひとりひとりみんな違っておもしろいです。

年中の東谷ひなつさんは、画用紙いっぱいに自分の成長を描きました。6歳からスタートし、14歳までの自分。つまり自分のこれからの成長を、自分の未来を描いています。6歳からだんだんと身体も大きくなって描かれています。まだ、見えない物を自分の今までの経験のなかで想像して描いているのです。自分をこんなふうにみることができるのですね。なんだかとても素敵な表現です。



こどもの描く絵の中にはその子の思いがつまっています。描くことで自分を表現しています。真っ白の自由帳やおえかきちょうがあって、常に表現できる環境を作っておくことで、言葉ではないこどもの思いを読み取ることができるかもしれません。

こどもの描いている絵をじっくり見てみることは、時には子どもを知ることがかりになりますし、子どもとの会話の広がりにもなります。

お部屋で夏祭りの絵を描きました。いとりゅうとくんは画面いっぱいに迷路だけを描いています。自分たちで作った迷路が一番心に残っているようです。

